

桃豚通信

MOMOBUTA TSUSHIN 2023年(令和5年)3月 vol.29

発行所
有限会社 ポークランド
有限会社 十和田湖高原ファーム
有限会社 フームランド
有限会社 小坂クリーンセンター
株式会社 ノースランド
株式会社 まんまランド
株式会社 あぐりランド

〒017-0201 秋田県鹿角郡小坂町小坂字坂ノ影1 URL http://www.momobuta.co.jp
TEL 0186-29-4000 FAX 0186-29-4002 E-mail momobuta@ink.or.jp



秋田県産飼料用米30%→40%へ



▲共同記者会見に臨んだ代表者（左より：JA全農ミートフーズ株式会社 常務取締役 松本雄造様、全国農業協同組合連合会秋田県本部 県本部長 小林和久様、パルシステム生活協同組合連合会代表理事・専務理事 渋澤温之様、ポークランドグループ代表 豊下勝彦、秋田県農林水産部次長 藤村幸司様、JA全農北日本くみあい飼料株式会社 代表取締役社長 羽田仁一様）

更なる飼料自給率向上を目指し、耕種連携・生販一体となって、持続可能な飼料用米の利活用拡大を目指し、令和3年12月より、ポークランドグループ4つの農場で、秋田県産飼料用米を配合した飼料を使用開始しました。

そして令和4年4月19日、秋田市内のホテルで新たな「日本のこめ豚」と新たな自社ブランド「秋田米育ち あきた美豚」について共同記者会見・試食会が行われました。

当グループ代表豊下から「輸入穀物の高騰や震災で海外依存がいかに危ういか痛感した。一方で国内はコメ余りが続く。飼料の自給率向上で耕作放棄地の再生、農地の保全にも貢献したい」というメッセージを送りました。

ポークランドグループは
「米どころ秋田」の田園風景を守るため、
秋田県産米の利活用に取り組んでいきます。

「日本のこめ豚」の飼料用米配合率を
30%→40%へ 輸入穀物に頼らない
持続可能な「日本型畜産」を進めます。

この度、パルシステム様のプライベートブランド「日本のこめ豚」と「秋田米育ち あきた美豚」は、秋田県産飼料用米の配合率を40%配合に増量した生産を開始いたしました。「日本のこめ豚」の生産農場では、令和4年1月から飼料用米40%配合した飼料の給餌を開始、3月末より出荷を行っております。その後、JA全農ミートフーズを通じ、パル・ミート（パルシステム生活協同組合連合会の子会社）にて、精肉加工され、組合員の皆様へ届けられています。（組合員様への供給開始は、令和4年4月2週目注文より行われました。）



味の特徴として、リノール酸系の脂肪（トウモロコシ由来）が、オレイン酸系の脂肪（米由来）になり、豚特有の脂肪のくどさが無くなり、脂に甘みがあり、あっさりした味わいに変わり、肉質が柔らかい豚肉になります。

塩だけの味付けで、旨味とさりとした脂の甘みを感じて頂けると思います。

▼秋田魁新報
2022年4月20日掲載



▼河北新報
2022年4月20日掲載

▼日本経済新聞
2022年4月20日掲載



地元の地方新聞や業界新聞等で
記者会見・試食会の記事が掲載されました。



◀北鹿新聞
2022年4月20日掲載

パルシステム様とポークランドグループの「日本のこめ豚」の取り組みは、飼料の自給率向上はもちろん、様々な原因で米作りを止めてしまった田んぼをよみがえらせることも目的でした。「日本のこめ豚」が増えれば、必要になる飼料用米の量も増加し、田んぼも拡大し蘇る。また豚舎で使ったもみ殻などは、米作りの堆肥に活用できます。こうして地域のモノと人がつながり、循環する仕組みこそが目標とする「日本型畜産」。このカタチが広がれば、やがては食料自給率の向上につながります。



そして「日本のこめ豚」の生産農場のバイオランドでは、「日本型アニマルウェルフェア」を実践しています。室内型放牧を行い、本来持つ豚の欲求を満たし、少しでも豚が健康で快適に過ごせるよう努力を重ねています。

令和4年11月 パルシステム茨城・栃木様主催のイベントへ参加してきました!
また、各地での日本のこめ豚学習会が実施され組合員の皆様からの
「日本のこめ豚」に対する温かい声を頂きました!



日本のこめ豚生産農場のバイオランドとWEBで繋ぎ、概要を説明しながら画面越しではありますか豚が動き回るところを皆様に見ていただきました。その後は日本のこめ豚に関するクイズを実施いたしました。

パルシステム様とは、生産者と消費者である組合員とお会いして顔が見えるお付き合いをしてきましたが、ここ数年はそれが出来ない状況が続いておりました。参加した豊下は「その場に行って組合員の皆様とお話しする事ができ、幸せな一日でした」と語っていました。新型コロナウイルス終息にはまだ時間がかかりそうですが、組合員様へ美味しい「日本のこめ豚」をお届けできるよう、このような交流ができる事に感謝・励みにさせてもらいたいと思います。

9月 21日 オンライン 【主催】パルシステム山梨	会員生協センター研修・学習会(日本のこめ豚)	30人参加
10月 25日 オンライン 【主催】パルシステム群馬	産直連続講座(日本のこめ豚)	27人参加
11月 6日 ハイブリッド 【主催】パルシステム茨城・栃木 (当グループ代表豊下は、うしくセンター)	日本のこめ豚産地交流会	45人参加
11月 19日 ラクアス東新宿【主催】パルシステム東京	産直連続講座(日本のこめ豚)	13人参加

「日本のこめ豚」
ご好評の声
●日本のこめ豚は香りが良く甘味もあり、さっぱりとして旨味の濃い内臓でも気に入っています。
●素材の味が良く揚げても焼いても大変美味しいのでリピートしています。
●塩胡椒だけでポークソテーにしました。脂まで美味しく、スーパーの豚肉は買わなくなっています。

東日本大震災や長引く輸入穀物の高騰、コロナショック…。
幾多の荒波を乗り越えて、進化と拡大を推し進める当グループ代表の豊下を取材して頂きました。
【超えムービー】「日本のこめ豚」
～なぜ米で豚を育てるのか～生協の宅配パルシステム



あきたSDGsアワード2022

飼料用米の利活用の取り組みなどに評価頂き

ポークランドグループが表彰を受けました。



あきたSDGsアワード2022は秋田県SDGsパートナーに登録される37の企業・団体等から応募があり、1次選考で15者が選定され、最終審査の結果、当グループを含む6者が選ばれました。

2023年1月30日、当グループ代表の豊下が表彰式へ出席し、佐竹秋田県知事より賞状とともに芳しい秋田杉製の楯をいただきました。

表彰式後、取組内容の紹介で、海外穀物へ依存しない養豚を目指し、秋田県産飼料用米をエサとして与える取り組みが循環型農業に繋がっていることなどについて発表させていただきました。



一般的にSDGsが注目される前から養豚を中心とした循環型農業を目指し、農地保全や水田機能の維持することで地域農業の活性化へ繋がる飼料用米への取り組みを評価いただけたことは生産者として励みになります。

高齢化や担い手不足など農業を取り巻く環境は厳しいですが、これからも持続可能な資源循環型・地域循環型農業に取り組んでいきたいと思います。

当グループの他、株式会社秋田銀行（秋田市）、株式会社秋田放送（秋田市）、株式会社アルビオン 白神研究所（藤里町）、大仙市立大曲南中学校（大仙市）、株式会社ブラウブリッジ秋田（秋田市）各団体の代表者が表彰されました。

秋田県北部に位置する北秋田市にポークラングループの新しい農場「ノースランド」が令和4年4月に完成しました。敷地面積は53,900m²、東京ドーム1個分(46,775m²)よりも一回り大きい広さです。

この農場はお母さん豚1000頭、お肉になる豚を1年間で26000頭出荷できる規模で、ポークランドグループでは創業地である秋田県小坂町以外に建てられた初めての豚舎です。



秋田県北秋田市に 新農場「ノースランド」が完成しました!



特定技能外国人も頑張ってます!

ポークランドグループでは、外国人労働者の受け入れを通じてインドネシアからの特定技能外国人4名を受け入れています。インドネシアの年間平均気温は28°Cと一年中半袖で過ごせる国なので、寒暖差も激しく雪が降る秋田県小坂町では、寒さに慣れるように頑張っているそうです。また、農場スタッフとコミュニケーションがとれるよう日本語も勉強し、理解するために努力されています。

家族を残し、慣れない土地での5年間は寂しさや心細さもあると思います。ポークランドグループは外国人のみなさんが働きやすい職場環境でサポートしていきたいと思います。



トリヨノ(28才)
令和4年6月1日入社
バイオランド分娩部



リオンドホホングボム(21才)
令和5年1月16日入社
ファームランド



コイルルアンワル(24才)
令和4年6月1日入社
バイオランド繁殖部



レオニマティウスヒア(20才)
令和5年1月16日入社
ファームランド

2022年の出来事

4月 秋田県産飼料用米の利活用の取り組みに関する共同記者会見を行いました!



4月 パルシステム様にて飼料用米40%配合のエサで育てた「日本のこめ豚」の供給が開始されました。

7月 ポークランドグループの加工場「まんまランド」が秋田県版HACCPの認定を受けました。

7月 ポークランドグループ加工所「まんまランド」製造の「日本のこめ豚ハンバーグ」がパルシステム様のカタログ「きなり」へ掲載され、4000パックが完売しました。

8月 北秋田市の5つ目の農場「ノースランド」が稼働開始しました。

9月 環境ISO14001の定期審査が行われました。



2022年11月 生産履歴公表JAS・全農安心システムの更新審査が行われました。



2023年1月 ポークランドグループがあきたSDGsアワード2022を受賞しました。



AKITA SDGs